

支え合うシニアの輪



昨春の春日市長選で選を棄
たした井上和市長は、選挙後
初の市議会で、ついに5年以降、
高齢化に伴う医療・介護などの
問題は極めて深刻な事態にな
る」と述べた。団塊の世代が75
歳以上の後期高齢者になって
社会保障費の急増が見込まれ
る。いわゆる「2025年問題」
を市民協働で乗り切りたい、
との趣旨だった。その、高齢者
が高齢者を支える協働のモデ
ルになるような市民団体があ
る。

◇向上心旺盛な92歳

「今、パソコンとiPhon
e（ 아이폰 ）を勉強中で
す」。92歳になる春日市の庄島
俊生さんは今年の年賀状にそう
書いて、周りを驚かせた。

若い頃は通訳をするほど英語
が堪能で、今も海外旅行が大好
きな自称「世界旅行家」の庄島
さんがパソコンを学ぶのは、外
国人との交流に使えるから。賀
状は昨年12月、市内の矢部節真
さん（75）宅で、林恵美子さん
（68）の支援を受けながらパソ
コンで仕上げた。

矢部さんは、シニア世代の初
心者のためのパソコン塾「ファ
イブネット春日」（FNK）代
表。その日、矢部さん宅に同た
のは本人と林さんの講師陣のほ
か、庄島さんから受講生3人。市
商工会での塾の講義内容をより
正確に理解するため、補助を受
けたのだった。

春日市に見る地域創生② ファイブネット春日



「今日は大丈夫、でも、一晩
寝たら忘れとるかも」「また、
覚えればいから」。無邪なや
りとりをしつつ、受講生がパソ
コンに向かう表情は真創そのも
の。

矢部さんは「そこは教えた
やろ？」と禁句、やさしく、
とをわりたい」と思っていたこ
ゆっくり、丁寧に教えるが私
たちの基本」と強調する。講
義に使うテキストも、矢部さ
んなら講師陣が手づくりで作成
した。

矢部さんは東京出身で元は大
手食品会社の営業マン。魚釣り
が好きだったこともあり、定年
後も最後の任地だった福岡に住
み着いた。「何か熱中できるこ
とをわりたい」と思っていたこ
ゆっくり、丁寧に教えるが私
たちの基本」と強調する。講
義に使うテキストも、矢部さ
んなら講師陣が手づくりで作成
した。

「2025年問題」克服のモデルに

矢部さんは「そこは教えた
やろ？」と禁句、やさしく、
とをわりたい」と思っていたこ
ゆっくり、丁寧に教えるが私
たちの基本」と強調する。講
義に使うテキストも、矢部さ
んなら講師陣が手づくりで作成
した。

15年前に大学生の息子のため、
機材を買ったことから。自分も
使い始め、何度も息子に質問し
て嫌がられるようになった。「じ
ゃあ、自分で勉強しよう」と一
念発起。メロウ倶楽部で矢部さ
んと知り合った。

塾は当初、地域社会と関わる
人を支援する春日まちづくり支
援センター「ぶどうの庭」で開
いた。やがて市商工会に移り、
今は講師9人が初心者、初級、
中級別に月2回（1回は150
分間、約80人に教えている（教
育期間は3年）。

◇医者いらずで元気

FNKの特徴を矢部さんは
「最大の目的は医者いらずの元
気なシニアの輪を広げること。
パソコンはそのツール（道具）」
とする。

塾には「山歩き」や「カラオ
ケ」「麻雀」など仲間作りの同
好会が10グループあり、定期的
に活動している。月謝を3千円
と低く抑えているのも、営利が
主目的ではないからだ。

矢部さんは言う。「私も現役
時代は朝早く家を出て夜遅く帰
り、地域との接点がなかった。
定年退職後は酒に走ったり、家
に居て妻に疎まれたりする例が
少なくない聞いたので、その
壁を壊したかった」

林さんも「年取って家に引き
込んでいてもうしょうがないでし
よ」と同調する。矢部さんや林
さんが「あの人を目指したい」
と口をそろえるのが、庄島さん
だ。庄島さんは24日のFNK新
春交流会で「箱根八里の半次郎」
の踊りを披露する。

（南里義則）



講師陣の林恵美子さんの支援でパソコンを使
って年賀状を作成する庄島俊生さん（右）
昨年12月10日、春日市
24日にある「ファイブネット春日」新春交
流会の打ち合わせをする講師陣（右から4人
目が代表の矢部節真さん） 14日、春日市